

さくらだより

第21号

2012年4月20日

社会福祉法人京都老人福祉協会 京都市伏見区深草大亀谷東古御香町59番地・60番地 TEL.075-641-6622 FAX.075-641-6633
<http://kyoro.or.jp/>



CONTENTS

特集 いい介護

正しい介護……………2

ネクタイへの道……………3

医療的ケア研修……………3

醍醐エリア 作品展……………4

醍醐の家ほっこり

春日丘センター

小栗栖の家ほっこり

深草エリア……………5

「地域の親子のために」

うづら保育園

雑巾プレゼント

深草センターほっこり

伏見エリア……………6

東高瀬川センターショートステイ

介護スタッフのある一週間

リレーコラム 「サツキ、あつひ、のの町で」……………7

養護の食堂が

リニューアルしました

防災訓練を行いました……………8

墨染つどいの広場……………8



ハートで
ぬくもりと安心を
お届けします
京都老人福祉協会



私は前年度も同じテーマで研修を担当させて頂きました。研修を担うとは何か？を明確に伝えられず、自分自身が納得のいかない結果で終わりました。今年度は、この研修で一番、職員に何を伝えたいのかを振り返って考え直し取り組みました。今回は、演習を通して能力開発とは何か？ どうして必要なのか？を

研修委員としての手応えはいかがですか？

をまとめる力・伝える力も、研修に参加する機会が多い職員ほど確実に身につけてきています。知識だけ持っていてそれを現場で実践できないと意味がないですし、根拠のない実践は場合によっては危険です。職員自身が成長することで、人材が人材となり、どこへ行ってもきちんと自分で考えて仕事が出来るとするのが理想で、そうなるってほしいと思います。

特集 「いい介護 正しい介護」

研修委員会 大西健一郎 川畑直子

私たちの仕事は、職員の質がサービスの質につながります。私たち自身が成長することは、自分自身のためであると同時に、利用者の生活の質を高め、ひいては利用者の権利を守っていくことにつながっていきます。そのためにも職員は積極的に研修に参加し、自己啓発を行なっています。

法人研修、外部研修など、どうして研修が必要なのでしょう？

まず、私たちの仕事は「職員の質が利用者の生活の質に直接関係している」と言えると思います。京都老人福祉協会の法人の基本理念の中に「私たちは、社会の一員としての豊かな感性と生活態度、よりよいサポートへの情熱と高い専門性をもった援助者・職員を目指します」とあります。研修はその目指すべき職員像に近づくための一つの手段だと考えています。

また、他でのやり方などを知り視野が広がることで、自分自身や自分たちの部署を客観的に見られるようになる、という効果もあると思います。

法人研修をひとつご紹介ください

能力開発研修は、講義や演習から自分の弱みや強みや何なのか？を考え、自分自身を知るといふ、自己覚知を行ない、どのような能力が自分には必要かを考えてもらう研修です。

新人職員対象のため、講義だけでなく、ゲーム形式の演習等を取り入れ、わかりやすく、かつ楽しく学べる内容を常に考えています。

一人ひとりが考え、またグループで考えられる演習に変更したことで、聞くだけではなく、考えながら理解をして頂けたと思います。最後に、研修を通して思うことは相手に伝えることは非常に難しいと感じています。

研修は受ける側、行なう側共に考えさせられることが多くあり、互いに職員として成長し、利用者サービスの質の向上につながっていく事を期待しています。

いい介護って何でしょう？

人の人生に深く関わっている介護の仕事は、困難や壁、悩みなどが尽きません。それに対して「面白い」とか「よし、やってやろう」と前向きに考えられるかどうか、「いい介護」につながっていくのではないのでしょうか。

「あ〜でもない、こ〜でもない」と先輩後輩職員一丸となってお年寄りのために試行錯誤を繰り返して、「いい介護をしよう!!」と努力と工夫を惜しまないことも大事だと思います。ただ、「いい介護・正しい介護」というのは、人の価値観と同じように、一人ひとりにあるのではないかと最近特に思います。

事業所独自の研修があると聞きました。どんなことですか？

介護職員は勤務時間がバラバラです。勤務を調整し、出来るだけ業務時間内で個別（1〜2人）のDVD研修を組み込んでいます。それ以外に、研修時間を利用して送迎や面接に介護職員が同行したり、勤務2〜3年目以上を対象にした春日丘内での他部署への交換研修（デイ⇄ショート、ショート⇄厨房など）も実施してきました。以前には福祉用具貸与業者から借りた、高齢者体験用の目隠しや、体に巻く重り、耳栓、グローブなどを使い、その状態で車いす座りっぱなし体験やベッドに寝かされっぱなし体験など

研修後、どんな風になりました？

研修報告書を提出してもらっていますが、なぜそういった介護や援助、声掛けをしているのか？といった根拠と、利用者側の視点で物事を考えられるようになったと思います。また、文章



平成24年度法人研修年間計画

月	新人	中堅	リーダー (内部研修)	リーダー (外部研修)
4月	着任研修			
5月		新人育成プロジェクト研修	リーダー着任研修	
6月		中堅能力開発研修		
		腰痛予防研修		
7月	コミュニケーション、チームワーク研修			ファシリテーション
8月		中堅課題形成研修		
9月		法人全体研修		問題解決のための思考方法
10月		中堅コミュニケーション研修		
11月	能力開発、課題形成研修		野外研修(チームワーク)	
12月		感染症研修		リスクマネジメント実践研修
1月		中堅問題解決研修		
2月		事例研究発表会		
3月		新人育成プロジェクト研修		

医療的ケアの研修

今回の痰吸引研修では、おおまかに口腔内の痰吸引の実施と胃ろうによる経管栄養技術を学びました。医療分野の基礎知識からの講義であったため、とてもわかりやすかったです。また、京都老人ホーム・特別養護老人ホームの現状と照らし合わせながらの講習、演習であったので、入居されている利用者がなぜ、その処置、ケアが必要なのかの理由、具体的根拠が理解できました。入居されている利用者が重度になっていく中で介護職としてできることは限られてきます。しかし、利用者の更なるケアの質を上げるためにも、安心、安全、快適に過ごして頂くためにも、こういった医療分野の研修は必要不可欠になってくると感じています。

特別養護老人ホーム 勝山



ネクタイへの道

きっちん「さくら」では、プロとしての技術を磨くため「ネクタイへの道」という技術研修を昨年4月からスタートしました。

基礎技術から上級までを5段階に分け、合格するごとにネクタイの色が変わっていくので、調理員としての意地とプライドをかけての真剣勝負です。この勝負に10名がエントリーしました。

まず、包丁の研ぎ方・だし汁の取り方から始まり、鯖の三枚おろし・大根の桂剥き・天ぷらと続きました。中には初めて桂剥きに挑戦したスタッフもあり、仕事が終わってから先輩に教わりながら練習を重ねてきました。

当日、緊張のあまり手が震えたり、真剣な眼差しに、審査する私たちにも緊張感が伝わってきました。

この3月には、各自で献立を考えた創作料理で締めくくります。

今後、ここで学んだ技術は日常業務ではもちろん誕生会や行事食などで披露して利用者様の笑顔につなげたいと思っています。

きっちん「さくら」 宮村



醍醐の家ほっこり

毎年醍醐地域で行われる、「ふれあい作品展」に向けてグループホームで利用者さんと一緒に作品作りをしました。ひとつはお花紙を活用し、ひな祭りの絵を、もう一つはペットボトルの蓋を使って辰の絵を作りました。利用者さんの中には、すくく楽しそうにして下さる方や、自ら進んで協力して下さる方もおられ2か月ほどで二つの作品を完成させることが出来ました。今後も作品作りに利用者さんと共に協力出来ればと思います。



『辰のおとしご だるま落とし』

きれいなー



醍醐エリア

作品展



『おひなさま』



『カーテン』



『はまぐり雛人形』



すてきねー

春日丘センター

春日丘センターでは毎年恒例となりつつある、ハマグリを使った雛人形です。和紙や千代紙を使って利用者それぞれ個性の作品に取り組まれています。他にも決まったものを製作するだけでは無く、レクリエーションで余った生地を使ってセンターのカーテン等を作って頂いたりもしています。



『合同作品展にて』



『牛乳パックをリサイクルし 紙すきした紙でカレンダー』

みんな 上手だねー



小栗栖の家ほっこり

小栗栖の家は小規模・特養・高専員が一緒になった施設です。普段から交流や行事を一緒に行なっていますが、今回は「作品展」ということで、職員と利用者、利用者同士の関わりを作ろうと、2月にとり組みました。 たくさんの方が集まり、新たな利用者の発見や作品を通しての交流ができる良い「作品展」でした。

深草エリア

『地域の親子のために』

うづら保育園

吉岡 裕美

現在の核家族社会の中、保育園にまだ入園されていないお子さんがおられる家庭で、近くに祖父母もおらず頼れる環境がない・子どもを保育園にあずけたいがどこにもあずけられないか分からない等、家庭内で様々な悩みを抱えている方がたくさんおられます。そのまま悩みを抱え込んでしまうと、育児ノイローゼや虐待につながることもあります。

そのような中で、地域とのつながりを持つことで、家族が地域の一員であるということを認識し、子育ての悩みを共有していける環境作りが必要だとおもいます。

その窓口として、うづら保育園では平成10年度に深草で唯一の京子どもいきいきプラン地域子育て支援ステーション事業施設として京都市から認可を受けました。

日々の子育ての悩み等をお母さん・お父さんに来園して頂いたり、電話でも受け付け、相談にのっています。

また、毎月第2・第4土曜日は園庭開放を行っており、季節に

より子どもの夕べ・運動あそびの日・クリスマス会等の園の行事にも参加して頂いております。生後数か月から就学前の子どもたちと一緒にあそぶ体験ができ、実際に園内の環境をみて、園長をはじめ保育士と話をすることで気軽に相談できる環境を設けています。また、園長・保育士・栄養士等による講演会も行なっております。 これらのような、保育園行事の紹介や参加のご案内・子育て情報など盛りだくさんの内容で、うづら親子CLUBと称し、おたよりも発行しております。 これからも園に足を運んでくださった方々にしっかり支援ができるよう、力を入れていきたいと思えます。



雑巾プレゼント

深草センターの利用者の方に来園して頂き、子どもたちに手縫いの雑巾と手作りのたわしを頂きました。

そのお返しに子どもたちからは、元気いっぱい大きな声で歌のプレゼントをしました。

雑巾とたわしは、子どもたちが掃除や飼育物の世話の際に、使わせて頂いています。



深草センター

昨年11月、同じ深草の地域にあるうづら保育園へご利用者さんと一緒に雑巾の寄贈に行ってきました。贈呈式ではたくさんの園児を迎えられ、お礼に歌の披露もして頂きました。帰る際はご利用者さんが園児から握手攻め？にあわれましたが、一緒に素敵な時間を過ごすことができ、ご利用者さんからも「ほんとに楽しかったわ」の声が聞けました。

この雑巾贈呈の取り組みは、23年度の事業方針の中の一つに地域とのかかわりを深めていくことを掲げていたので、ご利用者さんと職員でなにか地域の方や団体に喜んでもらえることはないか、役立つことはないかと考えていたところ、近隣の保育園や学校に雑巾を寄付してはどうかと職員より提案がありました。ご利用者さんの中で縫物が好きな方や得意な方がたくさんいらっしゃるので、得意なことを發揮してもらって地域の方に喜んでもらえたら何よりとすぐに取り組みを始めました。雑巾のもとになるタオルは事業所の機関紙「ほっこり通信」等で、いらなくなったタオルの寄付を募り、ご利用者さんのご家族をはじめ多くの方から寄付を頂きました。(この場をお借りしてお礼を申し上げます。)

それからはご利用者さんが一つひとつ手縫いで雑巾を仕上げ、半年がかりで80枚の雑巾が完成しました。この雑巾作りは、一つひとつが手作りのため時間はかかりますが、今後も継続して取り組んで行きたいと思えます。

★伏見エリア

東高瀬川センター ショートステイ 介護スタッフのある一週間



吉田スタッフ



- Q1 介護の仕事に携わるきっかけは
A 学生時代に会った先輩の熱弁に心打たれて
- Q2 職場の雰囲気は
A 一人として似たような人はいませんが、何となくバランスのとれた職場だと思います。それがかえって良いのかもしれませんが。居て飽きない職場です。
- Q3 介護をする中で一番得意なことは
A 得意…好きなことはやっぱり、利用者さんと話をすること。利用者さんの意外な一面を発見できると、やったあ!! と思います。話の中で色々な人生を見ることが出来るので、この仕事っていいなと思います。自分自身の視野も広がると思います。
- Q4 介護をする中で最も難しいことは
A 利用者さんとの関わりの中で、何に気を配って接すればいいのか一人ひとり違うところ。
- Q5 介護をする中で最も気をつけていることは
A 怪我をさせないように。「慣れは怖い」という意識は常に持つようにしています。

	月	火	水	木	金	土	日
	早出	日勤	夜勤	明け	休み	遅出	休み
7:00				離床介助 食事介助			
7:30	出勤 離床介助 食事介助						
8:30		出勤 引き継ぎ ベッド準備		引き継ぎ			
9:00	休後 レクリエーション 水分補給介助			退勤			
10:00	ふれあい						
11:00		水分補給介助 利用者更衣					
11:30	休憩					出勤 食事介助	
12:30	食事介助						
13:00	ふれあい						排泄介助 おやつ介助 休憩
13:30		入浴介助					
15:00	おやつ介助						
15:40	日中の記録						
16:00	退勤						
16:30				出勤 引き継ぎ			
17:00							離床介助 食事介助 排泄介助 退勤
18:00				食事介助 就寝介助			
19:00				退勤			
20:00				退勤			
1:30				2時間 巡回 休憩			
6:30				起床介助			

- Q6 休日はどのように過ごしていますか
A 予定のない時は、本屋さんをブラブラしたり、溜まっている家事を片付けたりしています。
- Q7 ストレス発散方法は
A ストレスはあまり感じないので…仕事のことで悩んだり、考えたりするのは通勤の時までと決めています。家に居る時は忘れます。
- Q8 今後の目標は
A 福祉の仕事をもっと続けていきたいと思っています。そのためにもいろいろな経験を積んでいきたいです。そして仕事が楽しいと自信を持って言えるようになります。

吉田さんってどんな人?

吉田介護職員はポロシャツの下に花柄の服を着ている職員です。素直で優しく、いつも笑顔で利用者さんに関わっています。その笑顔で利用者さんからも「かわいらしい子」と言われ、特に男性の利用者さんの人気者です。

自然と利用者さんだけではなく職員の雰囲気も丸くしてくれる介護職員です。笑顔だけではなく、何事にも真面目に取り組んでいろいろなことを吸収しています。ちょっとした失敗をしてもしっかりと反省をいかしケアや業務にあたっています。

利用者さんとコミュニケーションを取る事が好きで、時間が空けば利用者さんの横に行き、昔の話やニュースでの話題を話しています。聞き上手のため、コミュニケーションの中から利用者さんの状態や生活歴・ニーズを引き出すことが得意だと思います。こんな吉田介護職員をよろしくをお願いします。



ショートステイ 中村チーフ補佐

次回はあんしんサポート伏見を紹介します。

リレー column コラム

「おんじょう、おんじょう、おんじょう」

在宅事業部部长 松尾昌美



最近では核家族化が進み、地域とのつながりが希薄になってきました。昔のような「近所付き合い」や、地域の中で子育てをするということも、今ではほとんど見られなくなりました。そして高齢者にとっても、住みにくい地域、社会になってきています。

いろいろな世代の方々とのお互い「おんじょう」といって、誰かから必要とされていると感じることで、自分の存在意義を確認することが出来ます。今ではあまり使われなくなりましたが、「おんじょう」という言葉、それは共に支え合うという意味も込められていると思います。たとえば「稲荷の家ほっこり」では、開設当初から地域の皆さまがいつでも通って来てくださるような居場所作り、高齢者だけではなく、子どもやお父さんお母さんなど、多世代がふれあい、つながりを作ることが出来る居場所作りを目指してきました。高齢者の事業

所ではありませんが、開設まもなく、子育て中の親子が通って来る事が出来る遊び場「地域子育て支援センター」ついでに「広場」を京都府から受託することになり、私どもが思い描いていた多世代交流の居場所作り、共生ケアに、少しずつではありますが進んでいっているのではないかと感じております。

またこの3月、地元の墨染にて2か所目のついでに「広場」を開設することになりました。子育て支援だけの事業となりますが、「稲荷の家ほっこり」と同様、地域の皆さまがいつでも気兼ねなく通ってくださるような居場所作りを目指したいと考えております。

お互いの存在を認め合いながら、「もっと、ずっと、この町で」暮らし続けたい、そう思うことが出来る地域作り、私も微力ながら地域の皆さまと一緒に努力してまいります。

養護の食堂がリニューアルしました!!

今年度食堂の改築を致しました。数十年同じ雰囲気でご過ごしてきましたが、錆びついた机や時代錯誤的な椅子での食事は美味しいものも美味しくなくなるのではないかと、そんな声から考え始めました。施工期間の設定やその期間の食事提供の方法、改築後の食事提供のあり方、考えないといけないことは山のようにありました。そして、この改築には利用者の皆さんにも協力して頂き、月一回の座談会で、椅子や机について職員が下見してきたものをパワーポイントで見せたり、実際に椅子を持ってきてもらって利用者の皆さんに座って頂いたりしました。感想を求めたりしたところ、スライドを見て「こんな机。脚は、こんな形の方が頑丈やで」と教えて下さったり「こっちの椅子の方が背中が柔らか過ぎひんしええわ」と笑顔で座った感想を話されたりしていました。



机は写真を元に、毎日使用される利用者にも選んで頂きました。椅子は業者から持ってきてもらい実際に座わり比べてもらいました。



昔もたれにも角座がついて円背の方でも座りやすい椅子も選びました。



工事の間、食事は厨房の協力もあり、お弁当で提供させて頂き、お部屋やテレビ室、リビング等、自由な場所で開催されました。

利用者の感想

食堂が好きな場所だったので、天井が白く、明るくなったのでなお良かった。広くなったように感じた。椅子もテーブルもすごく良い。気分も変わり、とても気に入っています。



藤城学区自治連合会 藤城安全委員会 藤城学区自主防災会 伏見消防署 京都老人ホーム（共催）

防災訓練を行いました

昨年10月に藤城自主防災会と京都老人ホームは、大規模災害に総合協力を図る協定を結びました。その行動の一環として、また、春の火災予防運動期間の催しとして、3月3日（土曜日）、午前10時より京都老人ホームの玄関前広場で地域の皆様と合同防災訓練を開催しました。

伏見消防署から救急隊も参加していただき、搬出、消火訓練には近隣の方の参加もあり有意義な訓練になりました。



訓練等の 内容

- ◎京都老人ホーム内の見学
- ◎模擬避難訓練・救急処置訓練（AEDの操作等）
消火訓練（消火器の操作）サポート：伏見消防署
- ◎炊き出し訓練（当日調理したおでん・ぶた汁・カレーは、皆様に配給し試食をして戴きました。）



■ 編集後記 ■

記事を書いて読んでもらい知ってもらおう…広報委員として、また、エリアの担当として…皆さんにもっと知ってもらいたい、読んでもらいたい、という思いが、号数を重ねるごとにメンバーの中にもどんどん募ってきました。エリア担当がそれぞれの事業所に声をかけ、たくさんの記事が集まり、たくさんの情報がこの、さくらだよりで発信できたのではないかと思います。

広報委員 宮本真弓

家族会



平成24年度

家族会総会のご案内

京都老人ホーム家族会世話人会

ご家族同士の思いを出し合って共に手をつないでいこうとしています。お気軽に多数ご出席ください。新たに入居された方のご家族も、どうぞお越しください。

5月20日 日曜日
午後2時～3時半予定
京都老人ホーム 訓練室にて
(特養玄関から入って右 カートン中)

京都市子育て支援活動センター(つどいの広場)

墨染つどいの広場

京都市伏見区深草中之島町4-10
TEL&FAX 075-641-2571

対象者 京都市内の子育て中の親子
0歳から3歳くらいまでの子どもさん
開所日 毎週午前10時より午後4時まで
休所日 日曜日及び月曜日・祝日

子育て中のお母さん達が集まっていろんな出会いの中でお母さんや子どもたちにお友達ができればいいな…と思っています。ぜひ親子で遊びに来てください。

